



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、**定員30名以内**ですのでご理解ください。

第4回 帰化植物展

- 期間：8月7日(金)～8月16日(日)
- 場所：植物園会館1階展示室
- テーマ：「侵略的外来植物」
- 内容：帰化植物の写真、解説パネル及び切花等の展示

第59回 植物学習相談会

- 日時：8月15日(土) 9:00～12:00、13:00～16:00
- 場所：植物園会館2階研修室
- 内容：植物標本の仕上げ方や植物同定などの相談

バラ剪定講習会

- 日時：8月22日(土) 13:00～15:00 (受付12:30～)
- 場所：植物園会館2階研修室及びばら園
- 内容：バラの夏剪定の方法と目的
- 講師：日本ばら会京都部会員

第5回 水草展

- 期間：8月28日(金)～9月22日(火・祝)
- 場所：植物園会館前
- 内容：様々な水草を鉢で屋外展示

「芦生の天然林と着生植物」写真展

- 期間：8月21日(金)～8月30日(日)
 - 場所：植物園会館1階展示室
 - 内容：植物研究家、福本繁氏が長年撮りためた京都大学芦生研究林内の風景や植物などの写真約50点を展示
- ← * 詳細は植物園HPで!



「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート! (30分程度)



「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

- 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141で



スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



⑫ オニブキ

グンネラ科。ブラジル南東部のセーハ・ド・マール山脈に自生。葉柄の長さが1m以上、葉の直径が大ききものでは2m近く、草丈3mほどになり、「地上で最も巨大な葉を持つ植物」と称して、大阪花博などで日本に紹介された。

⑪ オミナエシ

スイカズラ科。日本(沖縄除く)、中国、東シベリアに分布。「オミナ」とは女性、「エシ」とはへし(圧)、圧倒させるという意味。細くすらっと花茎を伸ばし、先端に可愛い花を咲かせる様子を美女をも圧倒する美しさだと名が付いたとの説も。

⑩ ハエトリグサ

モウセンゴケ科。北アメリカのノースカロライナ州、サウスカロライナ州に分布する食虫植物。左右の葉の内側に感覚毛が3本ずつあり、2回以上触れると瞬時に葉を閉じる。風雨などの誤作動を防ぐため、1回の接触だけでは葉は閉じない。

⑨ 変化アサガオ

ヒルガオ科。アサガオの突然変異した種類を選んで交配させ、花と葉の形の珍しさを観賞。江戸時代から現代に受け継がれている伝統園芸植物。多くは遺伝的に弱いため維持・保存が困難だが、愛好家などによって継承されている。

① ムクゲ

アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムグンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間中咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。

② トウジンビエ

イネ科。熱帯アフリカ原産。少雨、貧栄養土壌、高温という栽培条件に適しており、全世界の雑穀栽培の約50%を占める。現在では美しい穂を持つ幾つかの種が観賞用としても利用される。葉色は緑葉のものから銅葉など品種により様々。

③ アザレアツバキ

ツバキ科。中国広東省原産。ツバキ属の中で珍しい「夏咲き」で7月頃から咲き始める。夏に咲く「ナツツバキ」は有名で、同じツバキ科ではあるが、ナツツバキ属に分類される。一重咲きで鮮やかな紅色の花弁が特徴。

④ ガガブタ

ミツガシロ科。生育可能な湿地やため池が減少し、京都府では絶滅寸前種に指定。和名は葉の形を平安時代以後の調度品「鏡箱」のふたになぞらえて「カガミフタ」と呼んだのがなまったとされる。朝咲いた花は昼過ぎにははしぼんでしまう。

⑤ ヒョウタン

ウリ科。アフリカ原産。かんぴょうの原料であるユウガオの仲間。日本での栽培は古く「日本書紀」にも登場する。乾燥させた果実を水筒などの容器に使うなど、人々の生活との関わりは深い。丸いものや細長いものなど形状は様々である。

⑥ ヒマラヤスギ

マツ科。ヒマラヤ北西部からアフガニスタン東部が原産。名にスギと付くがマツの仲間で、秋には大きな松かさができる。当園では1917(大正6)年に高さ約2mの個体が植栽された記録が残る。現在、咲き始めの雄花が観察できる。

⑧ オジギソウ

マメ科。南アメリカ原産。日本へは江戸時代後期に持ち込まれたといわれている。接触、熱、風、振動といった刺激によって小葉が先端から一対ずつ順番に閉じて、最後に葉全体がやや下向きに垂れ下がる。その動作が名前の由来。

⑦ マツリカ

モクセイ科。東南アジア原産。別名で「アラビアジャスミン」とも呼ばれる。花は香りが強く、ジャスミン茶(茉莉花茶)などに使われる。ジャスミン茶は茶葉にマツリカの花の香りを吸着させたもので、もっとも有名な花茶である。

